

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ工作機械製造會社ノ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十九條 政府公益上必要アリト認ムルトキハ工作機械製造會社ニ對シ工作機械ノ販賣條件ノ變更ヲ命ジ又ハ工作機械ノ需要供給ヲ調節スル爲必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得政府公益上必要アリト認ムルトキハ工作機械製造會社ニ對シ其ノ設備ノ擴張又ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第二十條 政府軍事上必要アリト認ムルトキハ工作機械製造會社ニ對シ特殊工作機械ノ製造工作機械ニ關スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設其ノ他軍事上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 第十九條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リ爲シタル命令ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス
前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定スル工作機械ノ試作ヲ爲ス者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第二十三條 工作機械ノ輸入ガ工作機械製造事業ノ確立ヲ妨グルノ虞アルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ工作機械ノ輸入ヲ制限スルコトヲ得

第二十四條 工作機械ノ輸入ニ因リ其ノ市價ノ低落ヲ來シ工作機械製造事業ノ確立ヲ妨グルノ虞アルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關稅調查委員會ノ議ヲ經テ期間ヲ定メ工作機械ニ對シ關稅定率法別表輸入税ノ外其ノ物品ノ價格ノ五割ニ相當スル金額以下ノ輸入税ヲ課スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ工作機械製造會社ヲ除クノ外工作機械又ハ工作機械部分品ノ製造ヲ爲ス者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ業務又ハ設備ノ狀況ニ關シ必要ナル事項ヲ届出デシムルコトヲ得

第二十六條 政府第三條ノ許可、第六條ノ許可(命令ノ定ムル規模以上ノ設備ニ關スルモノニ限ル)第十九條ノ命令、第二十一條ノ補償金額ノ決定又ハ第二十三條ノ制限ヲ爲サントスルトキハ工作機械製造事業委員會ノ議ヲ經ベシ
工作機械製造事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定

ム

第二十七條 工作機械製造會社本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ第三條ノ許可ヲ取消シ、取締役若ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ノ解任ヲ爲シ又ハ之ニ對シ第十條ノ規定ニヨル補給金ノ全部若ハ一部ヲ交付セズ若ハ交付シタル補給金ノ全部若ハ一部ヲ返還セシムルコトヲ得

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第三條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ工作機械製造事業ヲ營ミタル者
- 二 第二十三條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ工作機械ノ輸入ヲ爲シタル者

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第六條ノ規定ニ違反シテ設備ヲ増設シ又ハ變更シタル者
- 二 第十五條第一項ノ規定ニ違反シテ事業ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止シタル者

- 三 第十六條第一項ノ規定ニ違反シテ事業計畫ノ届出ヲ爲サズ又ハ届出デタル事業計畫ヲ實施セザル者
- 四 第十六條第二項ノ規定ニ依リ變更命令ニ違反シテ事業計畫ヲ實施シタル者
- 五 第十七條ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ利益金ノ處ヲ爲分シタル者
- 六 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十條 第十八條第二項ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者
- 二 第十八條第三項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第三十二條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮

ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十四條 第二十五條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ工作機械製造事業ヲ營ム者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

前項ノ者ニシテ本法施行ノ際現ニ第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ設備ノ増設又ハ變更ノ工事中ニ在ルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三條ノ規定ニヨリ許可ヲ受クベキ工作機械製造事業ヲ營ム

爲本法施行ノ際現ニ其ノ設備ノ建設工事中ニ在ル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ同條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

前二項ノ規定ニ該當スル者ノ當該設備ニ關シテハ第七條、第八條及第十條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

航空機製造事業法 (昭和十三年三月廿九日法律第四十一號)

第一條 本法ニ於テ航空機製造事業ト稱スルハ命令ヲ以テ定ムル航空機又ハ其ノ機體、發動機若ハプロペラノ製造ヲ爲ス事業ヲ謂フ

前項ノ事業ヲ營ム者ノ爲ス航空機ノ部分品若ハ附屬品ノ製造、其ノ事業者ノ用フル航空機用材料ノ製造又ハ航空機ノ修理ハ之ヲ當該事業ノ一部ト看做ス

第二條 航空機製造事業ヲ營マントスル者ハ政府ノ許可ヲ受クベシ

第三條 前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ハ帝國法令ニ依リ設立シタル株式ニシテ其ノ株主ノ半數以上、取締役ノ半數以上、資本ノ半額以上及議決權ノ過半數ガ帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル法人ニ屬スルモノニ限ル

前項ノ法人ハ其ノ社員株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ガ外國人又ハ外國法人ニ屬セザルモノナルコトヲ要ス

前條ノ許可ヲ受ケタル者前二項ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第四條 第二條ノ許可ヲ受ケタル會社ハ政府ノ指定スル期間内ニ其ノ事業ヲ開始スベシ

政府ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得

第二條ノ許可ヲ受ケタル會社第二條ノ期間内ニ其ノ事業ヲ開始セザルトキハ第二條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第五條 航空機製造事業ヲ營ム會社(以下航空機製造會社ト稱ス)ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ニ之ヲ届出ヅベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第六條 政府ハ航空機技術委員會ノ議ヲ經テ航空機ノ機體發動機、プロペラ、部分品、材料及附屬品ニ付其ノ規格ヲ定ムルコトヲ得

航空機製造會社ハ前項ノ規定ニ依リ規格ヲ定メタルモノニ

付テハ規格ニ適合スルモノニ非ザレバ之ヲ製造又ハ使用スルコトヲ得ズ但シ政府ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

航空機技術委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 航空機製造會社其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ

航空機製造會社ノ合併又ハ解散ノ決議ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第八條 航空機製造事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業トシ同法ヲ適用ス

第九條 航空機製造會社ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第二條ノ許可ヲ受ケタル年及其ノ翌年ヨリ五年間其ノ事業ニ付所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第十條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ規定ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラレタル航空機製造會社ニハ其ノ免除セラレタル事業ニ對シ課稅スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 航空機製造會社其ノ事業ノ爲必要ナル器具、機械

又ハ材料ヲ政府ノ認可ヲ受ケ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ五年間勅令ノ定ムル所ニ依リ輸入税ヲ免除ス

第十二條 航空機製造會社本邦ニ於テ未ダ製造セラレタルコトナキ航空機又ハ其ノ機體、發動機若ハプロペラノ製造ヲ爲ス場合ニ於テハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ之ニ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得航空機ノ部分品、材料又ハ附屬品ニシテ本邦ニ於テ未ダ製造セラレタルコトナキモノヲ製造スル場合亦同ジ

第十三條 航空機製造會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第十四條 航空機製造會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ガ拂込ミタル總金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ
第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ政府其ノ必要ナシト認メタルトキ

ハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 政府ハ航空機製造會社ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

政府ハ航空機製造會社ニ對シ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル勅令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ航空機製造會社ノ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十六條 政府ハ公益上必要アリト認ムルトキハ航空機製造會社ニ對シ航空機又ハ其ノ機體、發動機若ハプロペラノ販賣價格若ハ販賣條件ノ變更ヲ命ジ又ハ此等製品ノ供給ニ關シ必要ナル事ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 政府ハ軍事上必要アリト認ムルトキハ航空機製造會社ニ對シ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ命ズルコトヲ得政府公益上必要アリト認ムルトキ第一號乃至第五號ニ掲グル事項ニ付亦同ジ

- 一 設備ノ擴張又ハ改良
- 二 政府ノ指定スル航空機又ハ其ノ機體、發動機若ハプロ

ベラノ製造

三 航空機ニ關スル特殊事項ノ研究又ハ特殊設備ノ施設

四 航空機又ハ其ノ機體、發動機若ハプロペラノ製造技能者ノ養成

五 航空機又ハ其ノ機體、發動機若ハプロペラノ製造ニ關シ設備ノ共用其ノ他他ノ航空機製造會社ニ對スル協力

六 航空機用材料ノ保有

七 従業者又ハ工場其ノ他ノ設備ノ政府ニ對スル供用

八 特殊ナル事業計畫ノ設定又ハ其ノ計畫ニ付必要ナル演練

九 工場ノ警備又ハ防諜上必要ナル施設

十 航空機ニ關スル資料ノ提出

十一 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外特ニ必要ナル事項前項第一號乃至第四號又ハ第六號乃至第十一號ノ勅令ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス前項ノ補償ヲ伴フベキ勅令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一項第五號ノ場合ニ於テ費用ノ負擔ニ付當事者間ニ協議調ハザルトキハ政府之ヲ裁定ス裁定ニ對シ不服アル者ハ裁

定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十八條 政府第十六條若ハ前條第一項第一號ノ勅令又ハ前條第二項ノ補償金額ノ決定ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外航空機製造事業委員會ノ議ヲ經ベシ

航空機製造事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 航空機製造會社本法若ハ本法ニ基キテ發スル勅令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ、第二條ノ許可ヲ取消シ又ハ取締役若ハ其ノ職務ヲ行フ監査役ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十條 航空機ノ部分品、材料又ハ附屬品ノ製造事業ニシテ第一條ノ航空機製造事業ニ屬セザルモノニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ準用ス

第二十一條 第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ航空機製造事業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第五條第一項ノ規定ニ違反シテ事業計畫ノ届出ヲ爲サズ又ハ届出デタル事業計畫ヲ實施セザル者

- 二 第五條第二項ノ規定ニ依ル變更命令ニ違反シテ事業計畫ヲ實施シタル者
- 三 第七條第一項ノ規定ニ違反シテ事業ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止シタル者
- 四 第十六條又ハ第十七條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第十五條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者
- 二 第十五條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者
- 三 第十五條第三項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第二十四條 航空機製造會社ハ其ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スル

ベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 本法施行ノ際ニ航空機製造事業ヲ營ム者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

前項ニ掲グル者前項ノ期間内ニ第二條ノ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對シ許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄亦前項ニ同ジ

第九條ノ規定ハ第二項ニ掲グル者ガ第二條ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ事業開始ノ年ヲ以テ第二條ノ許可ヲ受ケタル年ト看做シ許可ノ日以後ノ分ニ付テノミ之ヲ適用ス

第十一條ノ規定ハ第二項ニ掲グル者ガ第二條ノ許可ヲ受ケタル前ニ於テ爲ス輸入ニ付テハ之ヲ適用セズ

〔參照〕

明治三十三年三月七日公布法律第二十九號土地收用法抄錄
 第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一

ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

- 一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業
- 二 皇室陵墓ノ營建又ハ神社若ハ官公署ノ建設ニ關スル事業
- 三 社會事業又ハ教育若ハ學藝ニ關スル事業
- 四 鐵道、軌道、索道、專用自動車道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道下水、國立公園、市場、電氣裝置、瓦斯裝置又ハ火葬場ニ關スル事業
- 五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國道府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業

石油資源開發法 (昭和十三年三月廿六日法律第三十一號)

第一條 石油ヲ目的トスル鑛業權者(以下石油鑛業者ト稱ス)ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ之ヲ政府ニ届出ジベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府鑛利保護上必要アリト認ムルトキハ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ石油鑛業者ニ對シ試掘助成金ヲ交付スルコトヲ得

第三條 政府ハ前條ノ試掘助成金ニ依リ試掘ノ結果開發セラレタル油田ヨリ採油ヲ爲ス者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ採油開始後五年間毎年採油價額ノ百分ノ二以内ニ相當スル金額ヲ納付セシムルコトヲ得

前項ノ油田ノ地域及深度ハ政府之ヲ指定ス

第四條 前條第二項ノ指定ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第五條 詐欺ノ行爲ヲ以テ第二條ノ試掘助成金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ金額ヲ返還セシム

第六條 第三條ノ規定ニ依リ納付金及前條ノ規定ニ依リ返還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第七條 政府石油資源ノ開發促進上必要アリト認ムルトキハ石油鑛業者ニ對シ其ノ鑛區ノ開發方法其ノ他必要ナル事項ニ付他ノ石油鑛業者ト協議ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

石油鑛業者他ノ石油鑛業者ノ鑛區ト隣接スル自己ノ鑛區ノ境界線ヨリ五十メートル以内ノ地域ニ於テ採掘ヲ爲サントスルトキハ鑛利保護上必要ナル事項ニ付豫メ隣接鑛區ノ石油鑛業者ト協議ヲ爲スベシ

政府石油資源ノ開發促進上又ハ鑛利保護上必要アリト認ムルトキハ前二項ノ協議ニ依ル決定ノ變更ヲ命ズルコトヲ得
第一項又ハ第二項ノ協議ヲ爲サズ若ハ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ政府ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

第八條 政府石油資源ノ開發促進上必要アリト認ムルトキハ石油鑛業者ニ對シ試掘又ハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得
政府前項ノ規定ニ依リ試掘ヲ命ジタルトキハ第二條ノ試掘助成金ヲ交付ス

第九條 政府軍事上必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ石油鑛業者ニ對シ採油ノ制限又ハ増加ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得
政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規定ニ依ル命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第十條 政府ハ石油鑛業者ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得
政府ハ石油鑛業者ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第七條第二項ノ規定ニ依ル協議ヲ爲サズ又ハ協議調ハザル以前ニ採掘ヲ爲シタル者
二 第七條ノ決定ニ基カズ又ハ同條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ決定ヲ變更セズシテ試掘又ハ採掘ヲ爲シタル者
三 第八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
四 第九條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第一條第一項ノ規定ニ違反シ事業計畫ノ届出ヲ怠リ又ハ届出デタル事業計畫ヲ實施セザル者
二 第一條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者
第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第十條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者
二 第十條第一項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

第十四條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十一條、第十二條又ハ前條第一號若ハ第三號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前三條ノ刑ヲ科ス

附 則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

重要鑛物増産法 (昭和十三年三月廿八日法律第三十五號)

第一條 本法ニ於テ重要鑛物トハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯漢鐵鑛、滿侖鑛、重石鑛、水鉛鑛、ニツケル鑛、コバルト鑛、石炭、亞炭、硫黃、砂金、砂鐵、砂錫其ノ他勅令ヲ以テ指定スル鑛物ヲ謂フ
本法ニ於テ鑛業權者トハ砂鑛權者ヲ、鑛業權トハ砂鑛權ヲ鑛區トハ砂鑛區ヲ含ム

第二條 政府重要鑛物ノ増産ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキ

ハ重要鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ヲシテ事業計畫ヲ定メ之ヲ届出ヅベキコトヲ命ズルコトヲ得
鑛業權者前項ノ命令ニ依リ届出デタル事業計畫ヲ變更セントスルトキハ之ヲ政府ニ届出ヅベシ
政府必要アリト認ムルトキハ前二項ノ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第三條 政府重要鑛物ノ増産ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ重要鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ニ對シ事業ニ著手シ又ハ事業ヲ繼續スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第四條 重要鑛物ノ増産ヲ圖ラントスル者ハ之ガ爲必要トスル鑛業權ノ讓渡又ハ隣接鑛區トノ間ノ鑛區ノ増減ニ付當該鑛業權者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ協議ヲ爲スコトヲ得
前項ノ協議ヲ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ重要鑛物ノ増産ヲ圖ラントスル者ハ當該事項ニ付政府ノ裁定ヲ申請スルコトヲ得

第五條 政府重要鑛物ノ増産ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ鑛業權ノ讓渡又ハ隣接鑛區トノ間ノ鑛區ノ増減ニ付當該鑛業權者ニ對シ重要鑛物ノ増産ヲ圖ラントスル者ト協議ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得
鑛業權者前項ノ協議ヲ爲サズ若ハ爲スコト能ハズ又ハ協議

調ハザルトキハ政府ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

第六條 第四條第二項ノ規定ニ依ル申請アリタルトキ又ハ前條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ當該鑛業權者ハ其ノ申請ヲ拒否スル旨ノ裁定アル迄又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ裁定若ハ決定ガ其ノ效力ヲ失フ時期迄當該鑛業權ヲ讓渡シ又ハ當該鑛區ノ分合、減區若ハ増減區ノ出願ヲ爲スコトヲ得ズ

第七條 政府鑛業權ヲ讓渡シ又ハ隣接鑛區トノ間ノ鑛區ノ増減ヲ爲ス旨ノ裁定又ハ決定ヲ爲ストキハ其ノ裁定又ハ決定ニ於テ鑛業權者ニ支拂フベキ對價及其ノ支拂ノ時期ヲ定ムルコトヲ要ス

第八條 裁定又ハ決定中對價ニ付不服アル者ハ其ノ裁定又ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日(裁定又ハ決定ノ通知ヲ受ケザル者ニ付テハ其ノ公示ノ日)ヨリ三十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條 左ニ掲グル場合ニ於テハ對價ヲ支拂フベキ者ハ其ノ對價ヲ供託スルコトヲ要ス
一 對價ヲ受クベキ者ガ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハザルトキ
二 裁定又ハ決定中對價ニ付前條ノ規定ニ依ル出訴アリタ

三 鑛業權ニ付抵當權ノ設定アルトキ但シ抵當權者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ
前項第三號ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ供託金ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第十條 對價ヲ支拂フベキ者裁定又ハ決定ニ於テ定メタル對價支拂ノ時期迄ニ對價ノ全部ノ支拂又ハ供託ヲ爲サザルトキハ鑛業權者ハ對價ヲ支拂フベキ者ニ對シテ六十日ヲ下ラザル一定ノ期間内ニ其ノ支拂又ハ供託ヲ爲スベキ旨ヲ催告スルコトヲ得
前項ノ期間内ニ支拂又ハ供託ナキトキハ裁定又ハ決定ハ其ノ效力ヲ失フ

第十一條 裁定又ハ決定ニ依ル對價ノ全部ノ支拂又ハ供託アリタルトキハ政府ハ鑛業權ノ移轉又ハ變更ノ登録ヲ爲ス
鑛業權者對價ノ全部又ハ一部ノ支拂ニ付延期ヲ承諾シタルトキ亦前項ニ同ジ此ノ場合ニ於テ政府ハ對價ノ支拂ヲ受クル權利ヲ有スル者ノ爲移轉又ハ變更アリタル鑛業權ニ付抵當權設定ノ登録ヲ爲ス

第十二條 第四條乃至第十條ノ規定ハ鑛業權ノ讓渡又ハ隣接鑛區トノ間ノ鑛區ノ増減ニ伴ヒ必要ナル事業設備ノ讓渡ニ

之ヲ準用ス但シ第九條中抵當權トアルハ登記シタル擔保權

抵當權者トアルハ擔保權者トス
事業設備ヲ讓渡スル旨ノ裁定又ハ決定アリタルトキハ其ノ權利ハ裁定又ハ決定ニ依ル對價ノ全部ノ支拂又ハ供託アリタル時移轉ス

第十三條 本法ニ規定スルモノノ外裁定又ハ決定ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 第四條第二項ノ規定ニ依ル裁定又ハ第五條第二項ノ規定ニ依ル決定ニ依リ鑛業權ヲ取得シ又ハ鑛區ヲ増區セラレタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ
政府必要アリト認ムルトキハ前項ノ事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 鑛業權者前條第一項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケザル事業計畫ヲ實施シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタルトキハ政府ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第十六條 政府重要鑛物ノ増産ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ重要鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ニ對シ事業設備ノ新設擴張若ハ改良ヲ命ジ又ハ作業方法若ハ作業用品ノ規格ニ關

シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ規定ニ依リ爲シタル命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第十七條 政府ハ重要鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ニ對シ其ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

政府ハ重要鑛物ヲ目的トスル鑛業權者ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十八條 本法ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業權者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第十九條 政府第四條第二項(第十二條第一項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル裁定、第五條第二項(第十二條第一項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル決定、第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル補償ヲ爲サントスルトキハ重要鑛物委員會ノ議ヲ經ベシ

重要鑛物委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第二條第一項ノ規定ニ依ル命令若ハ同條第二項ノ規定ニ違反シ事業計畫ノ届出ヲ怠リ又ハ届出デタル事業計畫ヲ實施セザル者
- 二 第二條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者
- 三 第三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
- 四 第十四條第一項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケザル事業計畫ヲ實施シタル者
- 五 第十四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ事業計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタル者
- 六 第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第二十條又ハ前條第一號若ハ第三號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ刑ヲ科ス

第二十三條 金鑛及砂金ニ關シテハ第二條、第三條、第十六條及第十七條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ施行後五年間ヲ限り其ノ效力ヲ有ス

本法失効ノ際ニ於テ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

日本産金振興株式會社法

(昭和十三年三月廿八日法律第三十六號)

第一章 總 則

- 一 第十七條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者
 - 二 第十七條第一項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者
 - 三 第十七條第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者
- 第二十二條** 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用者

第一條 日本産金振興株式會社ハ産金事業ノ振興ヲ圖ル爲必要ナル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル株式會社トス

第二條 日本産金振興株式會社ハ其ノ本店ヲ東京市ニ、支店ヲ京城府ニ置ク

日本産金振興株式會社ハ前項ノ外政府ノ認可ヲ受ケ支店又ハ出張所ヲ設クルコトヲ得

第三條 日本産金振興株式會社ノ資本ハ五千萬圓トシ内二千

五百萬圓ハ政府ノ出資トス

第四條 日本産金振興株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第五條 日本産金振興株式會社ノ株式ハ記名式トシ政府、公共團體、帝國臣民又ハ帝國法人ニ限り之ヲ所有スルコトヲ得

第六條 日本産金振興株式會社ノ存立期間ハ設立登記ノ日ヨリ三十年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第七條 日本産金振興株式會社ニ非ザルモノハ日本産金振興株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第二章 役 員

第八條 日本産金振興株式會社ニ社長副社長各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第九條 社長ハ日本産金振興株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

トキハ其ノ職務ヲ行フ

副社長及理事ハ社長ヲ補助シ日本産金振興株式會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ日本産金振興株式會社ノ業務ヲ監査ス

第十條 社長及副社長ハ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ四年トス

理事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命ジ其ノ任期ヲ三年トス

監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二年トス

第十一條 社長、副社長及理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 營 業

第十二條 日本産金振興株式會社ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

- 一 金鑛ヲ目的トスル鑛業若ハ砂金ヲ目的トスル砂鑛業
- (以下金鑛業ト總稱ス)、金製鍊業又ハ金鑛業若ハ金製鍊業ノ用ニ供スル器具機械類ノ製造業ニ對スル資金ノ融通又ハ投資
- 二 金鑛業又ハ金製鍊業

三 金鑛業又ハ金製鍊業ノ爲必要ナル器具、機械、材料又ハ設備ノ賣買

四 合金鑛產物ノ賣買

五 委託ニ依ル金鑛山ニ關スル調査又ハ鑑定

日本産金振興株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ノ外本會社ノ目的達成上必要ナル諸事業ヲ營ムコトヲ得

第十三條 日本興業銀行、朝鮮殖産銀行又ハ東洋殖産株式會社ハ前條第一項第一號ノ事業ニ關シ日本産金振興株式會社ノ業務ノ一部ヲ代理スルコトヲ得

日本産金振興株式會社前項ノ銀行又ハ會社ヲシテ業務ノ一部ヲ代理セシメントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第四章 産金振興債券

第十四條 日本産金振興株式會社ハ拂込ミタル株金額ノ五倍ヲ限リ産金振興債券ヲ發行スルコトヲ得

産金振興債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第十五條 産金振興債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十六條 政府ハ産金振興債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十七條 産金振興債券ハ無記名式トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名式ト爲スコトヲ得

第十八條 産金振興債券ノ所有者ハ日本産金振興株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第十九條 日本産金振興株式會社ハ社債借換ノ爲一時第十四條ノ制限ニ依ラズ産金振興債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月以内ニ其ノ社債總額ニ相當スル舊産金振興債券ヲ償還スベシ

第五章 準備金

第二十條 日本産金振興株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第六章 監督及助成

第二十一條 政府ハ日本産金振興株式會社ノ業務ヲ監督ス

第二十二條 日本産金振興株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十三條 定款ノ變更、利益金ノ處分、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十四條 日本産金振興株式會社ハ每營業年度ノ事業計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスル時亦同ジ

第二十五條 政府ハ日本産金振興株式會社ノ業務ニ關シ監督上又ハ産金事業ノ振興上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 政府ハ日本産金振興株式會社監理官ヲ置キ日本産金振興株式會社ノ業務ヲ監視セシム

第二十七條 日本産金振興株式會社監理官ハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ノ金庫、帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

日本産金振興株式會社監理官必要ト認ムルトキハ何時ニテモ日本産金振興株式會社ニ命ジ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本産金振興株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十八條 政府日本産金振興株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十九條 日本産金振興株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込

ミタル株金額ニ對シ年百ノ四ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第三十條 日本産金振興株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ達セザルトキハ政府ハ初營業年度及爾後五年間ヲ限リ之ニ達セシムベキ金額ヲ補給スベシ但シ其ノ額ハ初營業年度ヲ除キ每營業年度ニ於テハ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ニ相當スル額及當該營業年度ニ於テ支拂ヒタル産金振興債券ノ利息額ノ合計額ヲ超セルコトヲ得ズ

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ規定ニ依ル補給金ノ償還ニ充ツベシ

初營業年度及爾後五年間ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ二分ノ一ヲ配當準備ノ爲別ニ積立ツベシ

第二項ノ規定ニ依リ補給金ヲ償還シ尙殘餘アリタルトキハ

之ヲ前項ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過シタル當該營業年度ノ利益金ト看做ス
前二項ノ規定ニ依ル積立金ハ後營業年度ニ於ケル第一項ノ規定ニ依ル補給金ノ計算ニ付テハ之ヲ記當シ得ベキ利益金ト看做ス

第三十一條 日本產金振興株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ四ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第三十二條 日本產金振興株式會社ニハ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得稅及營業收益稅ヲ免除ス
第三十三條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間日本產金振興株式會社ノ事業ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ基キ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

定ハ前三條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

- 第三十八條** 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三十九條** 政府ハ設立委員ヲ命ジ日本產金振興株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム
- 第四十條** 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ
- 第四十一條** 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ
- 第四十二條** 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ商法第二百二十六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ
- 第四十三條** 設立委員株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ檢査ヲ受クベシ
- 第四十四條** 設立委員ハ前條ノ檢査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ
- 前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ召集スベシ
- 第四十五條** 創立總會ニ於テハ第十條ノ規定ニ準ジ理事候補者ノ選舉及監事ノ選任ヲ行フベシ

第七章 罰 則

- 第三十四條** 日本產金振興株式會社左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ社長又ハ社長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副社長ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス副社長又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副社長又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ
- 一 本法ニ依リ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ
- 二 第十二條ノ規定ニ依ラズシテ業務ヲ營ミタルトキ
- 三 第十四條ノ規定ニ違反シ產金振興債券ヲ發行シタルトキ
- 四 第十九條ノ規定ニ違反シ產金振興債券ノ償還ヲ爲サザルトキ
- 五 第二十五條ノ規定ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ
- 第三十五條** 日本產金振興株式會社ノ社長、副社長及理事第十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス
- 第三十六條** 第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス
- 第三十七條** 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規

第四十六條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ日本產金振興株式會社社長ニ引渡スベシ

第四十七條 本法施行ノ際日本產金振興株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ商號ト爲ス會社ハ本法施行後六月以內ニ其ノ商號ヲ變更スルコトヲ要ス
第三十六條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲グル者ニ適用セズ

第四十八條 登録稅法第六條第一項第十一號中「又ハ燃料興業債券」ヲ「燃料興業債券又ハ產金振興債券」ニ改ム

第四十九條 資金特別會計法第四條中「又ハ國債」ヲ「國債、產金振興債券又ハ總額二千五百萬圓ヲ限リ日本產金振興株式會社株式」ニ改ム

〔參照〕

明治二十九年三月二十日法律第二十七號登録稅法抄錄

第六條第一項
商會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ稅金額二十圓未滿ナルトキハ二十圓トス
十一 社債又ハ第二回以後ノ社債拂込
商法第二百四條ノ拂込アリタル日(賣出ノ方法ニ依リ發行シタル場合ニ於テハ賣出滿了ノ日)ヨリ最終ノ償

擔保附社債信託法中改正法律

還期限ニ至ル期間一年以下ノモノ
毎回拂込金額 千分ノ一
同三年以下ノモノ
毎回拂込金額 千分ノ二
同三年ヲ超ユルモノ
毎回拂込金額 千分ノ三

但シ産業債券、商工債券、農工債券、北海道拓殖債券、興業債券、勸業債券、臺灣拓殖債券、東洋拓殖債券、東北興業債券又ハ燃料興業債券ニ付テハ千分ノ二

昭和十二年八月十一日法律第六十一號金資金特別會計法抄錄

第四條第一項

本資金ハ本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要ナル金額ヲ除クノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ金又ハ國債ニ運用スルコトヲ得

第四條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二ノ二 株式質

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

株式ヲ物上擔保ノ目的ト爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ待遇ニ關スル法律

本邦内ニ於テ募集シタル命令ノ定ムル外國債ハ租稅ノ賦課又ハ納稅ノ擔保ニ關シテハ之ヲ國債ト看做ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ヲ募集シタル外國債ニハ本法ヲ適用セズ

有價證券引受業法 (昭和十三年三月三十日法律第五十四號)

第一條 本法ニ於テ有價證券引受業トハ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス營業ヲ謂フ

前項ノ有價證券ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 有價證券引受業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第三條 有價證券引受業ハ資本金二百萬圓以上ノ株式會社ニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第四條 第二條ノ免許ヲ受ケタル者(以下證券引受會社ト稱ス)ハ有價證券引受業ニ附隨スル業務又ハ有價證券ノ賣買若ハ其ノ媒介ノ外他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ズ但シ主務大臣ノ許可ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 證券引受會社ハ他ノ法律ノ制限ニ拘ラズ社債募集ノ委託ヲ受ケ又ハ社債募集ノ委託ヲ受ケタル會社ナキニ至リタル場合ノ事務承繼者ト爲スコトヲ得

第六條 證券引受會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
一 商號ヲ變更セントスルトキ

二 資本金ヲ變更セントスルトキ

三 支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ヲ設置セントスルトキ

四 本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ

第七條 證券引受會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第八條 證券引受會社ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツベシ

第九條 證券引受會社ノ營業年度ハ六月ヨリ十一月迄及十二月ヨリ五月迄トス

第十條 證券引受會社ハ營業年度毎ニ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第十一條 證券引受會社ハ營業年度毎ニ主務大臣ノ定ムル様式ニ依リ貸借對照表ヲ作成シ新聞紙ニ依リ之ヲ公告スベシ

第十二條 主務大臣ハ何時ニテモ證券引受會社ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ其ノ帳簿書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第十三條 主務大臣ハ何時ニテモ部下ノ官吏ニ命ジテ證券引受會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ證券引受會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ

依り必要ト認めルトキハ業務ノ停止ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十五條 證券引受會社ガ法命、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役、監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十六條 主務大臣ハ業務ノ停止ヲ命ゼラレタル證券引受會社ニ對シ其ノ整理ノ狀況ニ依リ必要ト認めルトキハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十七條 主務大臣ノ免許ヲ受ケズシテ有價證券引受業ヲ営ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役又ハ支配人ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第十條ノ規定ニ違反シ業務報告書ヲ提出セズ又ハ虚偽ノ業務報告書ヲ提出シタルトキ
- 二 第十一條ノ規定ニ違反シ公告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ公告ヲ爲シタルトキ
- 三 第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ帳簿書類ヲ提出セザルトキ
- 四 第十三條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルトキ

ルトキ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役又ハ支配人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 第四條、第六條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタルトキ
 - 二 第十條ノ規定ニ依ル業務報告書ノ提出又ハ第十一條ノ規定ニ依ル公告ヲ怠リタルトキ
 - 三 本法ニ基キテ爲ス命令ニ違反シタルトキ
- 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ニ定ムル過料ニ之ヲ準用ス

第二十條 銀行、信託會社又ハ特別ノ法律ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ有價證券引受業ヲ營ム者ニハ本法ヲ適用セズ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ有價證券引受業ヲ營ム者又ハ其ノ營業ヲ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ三月ヲ限り第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ營業ヲ爲スコトヲ得

前項ニ掲グル者前項ノ期間内ニ第二條ノ免許ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル免許又ハ不免許ノ處分ノ日迄亦前

項ニ同シ

本法施行ノ際迄一年以上引續キ有價證券引受業ヲ營ム者第二項ノ期間内ニ免許ヲ申請スルトキハ本法施行後二年ヲ限り第二條及第四條ノ規定ヲ適用セズ

有價證券業取締法 (昭和十三年三月廿八日法律第三十二號)

第一條 本法ニ於テ有價證券業トハ取引所ニ依ラザル有價證券ノ賣買又ハ其ノ媒介ヲ爲ス營業ヲ謂フ但シ銀行、信託會社及有價證券割賦販賣業者ノ營ムモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ有價證券ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 有價證券業ヲ營マントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ免許ヲ受クベシ

第三條 前條ノ免許ノ年限ハ五年トス

第四條 第二條ノ免許ヲ受クル者ハ免許料ヲ納ムベシ

前項ノ免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ第二條ノ免許ヲ受クルコトヲ得ズ

- 一 破産者ニシテ復権ヲ得ザルモノ
- 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受

クルコトナキニ至リタル後三年ヲ經過スルニ至ル迄ノ者

- 三 取引所ノ會員又ハ取引員ニシテ除名セラレ除名ノ日ヨリ三年ヲ經過セザルモノ
- 四 第六條第二項又ハ第十四條ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレ取消ノ日ヨリ三年ヲ經過セザル者
- 五 營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者又ハ禁治産者ニシテ其ノ法定代理人ガ前各號ノ一ニ該當スルモノ
- 六 法人ニシテ其ノ業務ヲ執行スル役員中第一號乃至第四號ノ一ニ該當スル者アルモノ

第六條 第二條ノ免許ヲ受ケタル者(有價證券業者)前條第一號乃至第三號、第五號又ハ第六號ニ該當スルニ至リタルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

主務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ第二條ノ免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第七條 有價證券業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ營業保證金ヲ供託スベシ

前項ノ營業保證金ハ主務大臣ノ認許シタル有價證券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第八條 有價證券業者ト其ノ業務ニ關シ取引ヲ爲シタル者ハ

其ノ取引ニ關シ生ジタル債權ニ關シ前條ノ營業保證金ニ付
他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第九條 有價證券業者ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ
受クベシ

- 一 商號ヲ變更セントスルトキ
- 二 支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ヲ設置セントスルトキ
- 三 本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ

第十條 有價證券業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ營業ニ關スル
帳簿ヲ備ヘ必要ナル事項ヲ之ニ記載スベシ

第十一條 有價證券業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ業務報告書
ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第十二條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ有價證券業者ニ
對シ其ノ業務若ハ財産ニ關スル報告ヲ命ジ又ハ當該官吏
シテ有價證券業者ノ營業所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務若ハ
財産ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコト
ヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベ
シ

第十三條 行政官廳ハ有價證券業者ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ
依リ之ヲ取引ヲ爲ス者ノ利益ヲ保護スル爲必要アリト認ム
ルトキハ業務ヲ停止シ又ハ制限シ、財産ノ供託ヲ命ジ其ノ

他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條 有價證券業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ主務
大臣ハ第二條ノ免許ヲ取消シ又ハ業務ヲ停止シ若ハ制限ス
ルコトヲ得

- 一 業務ニ關シ詐僞ノ行爲ヲ以テ他人ヨリ金錢若ハ有價證
券ノ交付ヲ受ケタルトキ又ハ業務ニ關シ他人ニ交付スベ
キ金錢若ハ有價證券ヲ不正ニ領得シタルトキ
- 二 業務ニ關シ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタルト
キ
- 三 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス
處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキ

第十五條 第二條ノ規定ニ違反シ免許ヲ受ケズシテ有價證券
業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ
處ス

第十六條 有價證券業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百
圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第九條ノ規定ニ依リ認可ヲ受クベキ事項ヲ認可ヲ受ケ
ズシテ爲シタルトキ
- 二 第十條ノ規定ニ依リ帳簿ヲ備ヘズ又ハ之ニ虛僞ノ記載
ヲ爲シタルトキ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ有價證券業ヲ營ム者又ハ其ノ營業ヲ相續ニ
因リテ承繼シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ六月ヲ限リ第二條ノ
規定ニ拘ラズ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得
前項ノ者前項ノ期間内ニ第二條ノ免許ヲ申請シタル場合ニ於
テ其ノ申請ニ對スル免許又ハ不免許ノ處分ノ日迄亦前項ニ同
ジ

北支那開發株式會社法

第一章 總 則

第一條 北支那開發株式會社ハ北支那ニ於ケル經濟開發ヲ促
進シ其ノ統合調整ヲ圖ルヲ目的トスル株式會社トシ其ノ本
店ヲ東京ニ置ク

第二條 北支那開發株式會社ノ資本ハ三億五千萬圓トス但シ
政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 政府ハ一億七千五百萬圓ヲ限リ北支那開發株式會社
ニ出資スベシ
政府ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

三 第十一條ノ規定ニ依ル業務報告書ノ提出ヲ爲サズ之ハ
之ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキ

四 第十二條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ報告ヲ
爲シタルトキ又ハ同條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査
ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サ
ズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキ

五 第十三條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違
反シタルトキ

第十七條 法人又ハ人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人
其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ本法若ハ本
法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ發ス處分ニ違反シタ
ルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以
テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベ
キ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ取締役其ノ他法人ノ業務
ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ
法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能
力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得
ズ

政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第四條 北支那開發株式會社ノ株金ノ第一回ノ拂込金額ハ株金ノ六分ノ一迄下ルコトヲ得

政府ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ第二回以後ノ株金拂込ニ充ツルコトヲ得

第五條 北支那開發株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第六條 北支那開發株式會社ノ株式ハ記名式トス

第七條 北支那開發株式會社ニ非ザルモノハ北支那開發株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ

第八條 北支那開發株式會社ノ定款ノ變更ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二章 役員

第九條 北支那開發株式會社ニ總裁一人、副總裁二人、理事五人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十條 總裁ハ北支那開發株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

總裁事故アルトキハ副總裁ノ一人其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ北支那開發株式會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス

第十一條 總裁及副總裁ハ勅裁ヲ經テ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス

理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

第十二條 總裁、副總裁及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 北支那開發株式會社ニ顧問若干人ヲ置クコトヲ得

顧問ハ總裁ノ諮問ニ應ジテ意見ヲ開陳ス

顧問ハ北支那開發株式會社政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ委囑ス

第三章 業務

第十四條 北支那開發株式會社ハ左ノ事業ノ主要ナルモノニ對シ投資又ハ融資ヲ爲シ其ノ經營ヲ統合調整スルモノトス

一 交通、運輸及港灣ニ關スル事業
二 通信ニ關スル事業

利ヲ有ス

第五章 準備金

第十九條 北支那開發株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第六章 政府ノ監督及助成

第二十條 政府ハ北支那開發株式會社ノ業務ヲ監督ス

第二十一條 北支那開發株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十二條 定款ノ變更、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十三條 北支那開發株式會社ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ利益金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十四條 北支那開發株式會社ハ每營業年度ノ投資及融資ノ計畫ヲ定メ事業開始一月前迄ニ之ヲ政府ニ提出シ認可ヲ受クベシ之ニ重大ナル變更ヲ加ヘントスルトキ亦同ジ

第二十五條 政府ハ北支那開發株式會社ノ業務ニ關シ監督上國防上又ハ北支那ニ於ケル經濟開發ヲ促進シ其ノ統合調整ヲ圖ル爲必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

三 發送電ニ關スル事業

四 鑛産ニ關スル事業

五 鹽ノ製造、販賣及利用ニ關スル事業

六 前各號ノ外北支那ニ於ケル經濟開發ヲ促進スル爲特ニ統合調整ヲ必要トスル事業

第四章 北支那開發債券

第十五條 北支那開發株式會社ハ拂込株金額ノ五倍ヲ限リ北支那開發債券ヲ發行スルコトヲ得

北支那開發株式會社ハ北支那開發債券借換ノ爲一時前項ノ制限ニ依ラズ北支那開發債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊北支那開發債券ヲ償還スベシ

北支那開發債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ

第十六條 北支那開發債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十七條 政府ハ北支那開發債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十八條 北支那開發債券ノ所有者ハ北支那開發株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權

前項ノ規定ニ依リ國防上必要ナル命令ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ガ帝國議會ノ協賛ヲ經タル金額ヲ超エザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十六條 政府ハ北支那開發株式會社監理官ヲ置キ北支那開發株式會社ノ業務ヲ監視セシム

北支那開發株式會社監理官ハ何時ニテモ北支那開發株式會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

北支那開發株式會社監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ北支那開發株式會社ニ命ジテ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

北支那開發株式會社監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十七條 政府ハ北支那開發株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條 北支那開發株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

ノ中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ依リタル部分及社債收入金ニ依リタル部分ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 北支那開發株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第三十一條 北支那開發株式會社ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間所得稅及營業收益稅ヲ免除ス

第三十二條 北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ前條ノ期間北支那開發株式會社ノ事業ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第三十三條 北支那開發株式會社ガ設立、資本ノ増加、合併又ハ第二回以後ノ株金拂込ノ登記ヲ受クル場合ニ於テハ其

額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

第二十九條 北支那開發株式會社ノ每營業年度ニ於ケル投資及融資ニ因ル收入ノ投資及融資ノ總額ニ對スル割合（以下收入割合ト稱ス）ガ年百分ノ六ニ達セザルトキハ政府ハ初營業年度及爾後五年間左ノ各號ノ金額ノ合計額ヲ限度トシ配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄其ノ不足額ニ相當スル金額ヲ補給ス

一 投資及融資ノ總額中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ依リタル部分ニ百分ノ七ヨリ收入割合ヲ減ジタル差ヲ乘ジテ得ベキ金額

二 投資及融資ノ總額中社債收入金（社債前借金ヲ含ム以下同ジ）ニ依リタル部分ニ百分ノ五ヨリ收入割合ヲ減ジタル差ヲ乘ジテ得ベキ金額

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ補給金ノ償還ニ充ツベシ

第一項ノ投資及融資ニ因ル收入、投資及融資ノ總額並ニ其

ノ登録稅ノ額ハ拂込株金額、増資拂込株金額又ハ毎回拂込株金額ノ千分ノ一トス

第七章 罰則

第三十四條 北支那開發株式會社ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第三十五條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條 政府ハ設立委員ヲ命ジ北支那開發株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十七條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ政府前項ノ規定ニ依リ認可ヲ爲サントスルトキハ政府ノ出資ノ目的タル金錢以外ノ財産ノ價格及之ニ對シテ與フル株式ノ數ニ付政府出資財産評價委員會ノ議ヲ經ベシ政府出資財産評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第三十九條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日竝ニ商法第百二十六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第四十條 設立委員ハ株主ノ募集終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ検査ヲ受クベシ

第四十一條 設立委員ハ前條ノ検査ヲ受ケタル後遲滞ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ
前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク創立總會ヲ招集スベシ

第四十二條 創立總會ニ於テハ第十一條ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任ヲ行フベシ

第四十三條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ北支那開發株式會社總裁ニ引渡スベシ

第四十四條 政府第四條第二項ノ規定ニ依リ金錢以外ノ財産ヲ以テ其ノ所有スル株式ノ株金拂込ニ充ツル場合ニ於テハ其ノ財産ノ價格ニ付政府出資財産評價委員會ノ議ヲ經ベシ
第四十五條 政府ハ北支那開發株式會社ニ對スル出資ノ目的

ニ充ツル爲帝國鐵道特別會計ヨリ其ノ所屬物件ヲ無償ニテ一般會計ニ保管換ヲ爲スコトヲ得
第四十六條 登録稅法第六條第一項第十一號中「東洋拓殖債券」ノ下ニ「北支開發債券」ヲ加フ

中支那振興株式會社法

第一章 總則

第一條 中支那振興株式會社ハ中支那ニ於ケル經濟ノ復興及開發ヲ助成スルヲ目的トスル株式會社トシ其ノ本店ヲ上海ニ置ク

第二條 中支那振興株式會社ノ資本ハ一億圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ增加スルコトヲ得

第三條 政府ハ五千萬圓ヲ限リ中支那振興株式會社ニ出資スベシ
政府ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得
政府所有ノ株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第四條 中支那振興株式會社ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資

本ヲ增加スルコトヲ得

第五條 中支那振興株式會社ノ株式ハ記名式トス

第六條 中支那振興株式會社ニ非ザルモノハ中支那振興株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ
第七條 中支那振興株式會社ノ定款ノ變更ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第二章 役員

第八條 中支那振興株式會社ニ總裁副總裁各一人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第九條 總裁ハ中支那振興株式會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス
副總裁ハ總裁事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ中支那振興株式會社ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與ス
監事ハ中支那振興株式會社ノ業務ヲ監査ス

第十條 總裁及副總裁ハ勅裁ヲ經テ政府之ヲ命ジ其ノ任期ヲ五年トス
理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ政府ノ認可ヲ受クルモノトシ其ノ任期ヲ四年トス

監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ三年トス

第十一條 總裁、副總裁及業務ヲ分掌スル理事ハ他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ政府ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三章 業務

第十二條 中支那振興株式會社ハ左ノ事業ニ對シ投資又ハ融資ヲ爲スモノトス

- 一 交通及運輸ニ關スル事業
- 二 通信ニ關スル事業
- 三 電氣、瓦斯及水道ニ關スル事業
- 四 鑛産ニ關スル事業
- 五 水産ニ關スル事業
- 六 前各號ノ外中支那ニ於ケル公共ノ利益又ハ産業ノ振興ノ爲必要ナル事業

特殊ノ事情アル場合ニ於テハ中支那振興株式會社ハ政府ノ認可ヲ受ケ前項各號ニ掲グル事業ヲ自ラ經營スルコトヲ得

第四章 中支振興債券

第十三條 中支那振興株式會社ハ拂込株金額ノ五倍ヲ限リ中支振興債券ヲ發行スルコトヲ得
中支那振興株式會社ハ中支振興債券借換ノ爲一時前項ノ制

限ニ依ラズ中支振興債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一月内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊中支振興債券ヲ償還スベシ

中支振興債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第二百九條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セス

第十四條 中支振興債券ヲ發行セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クベシ

第十五條 政府ハ中支振興債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第十六條 中支振興債券ノ所有者ハ中支振興株式會社ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

第五章 準備金

第十七條 中支振興株式會社ハ每營業年度ニ準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益金額ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得シムル爲利益金額ノ百分ノ二以上ヲ積立ツベシ

第六章 政府ノ監督及助成

第十八條 政府ハ中支振興株式會社ノ業務ヲ監督ス

第十九條 中支振興株式會社借入金ヲ爲サントスルトキハ

政府ノ認可ヲ受クベシ

第二十條 定款ノ變更、合併及解散ノ決議ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十一條 中支振興株式會社ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ利益金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十二條 中支振興株式會社ハ每營業年度ノ投資及融資竝ニ自營事業ノ計畫ヲ定メ事業開始一月前迄ニ之ヲ政府ニ提出シ認可ヲ受クベシ之ニ重大ナル變更ヲ加ヘントスルトキ亦同ジ

第二十三條 政府ハ中支振興株式會社ノ業務ニ關シ監督上國防上又ハ中支振興ニ於ケル公共ノ利益若ハ産業ノ振興ノ爲必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ國防上必要ナル命令ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス前項ノ補償ヲ伴フベキ命令ハ之ニ因リ要スベキ補償金ノ總額ヲ帝國議會ノ協贊ヲ經タル金額ヲ超ニザル範圍内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十四條 政府ハ中支振興株式會社監督官ヲ置キ中支振興株式會社ノ業務ヲ監視セシム

中支振興株式會社監督官ハ何時ニテモ中支振興株式會

社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

中支振興株式會社監督官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ中支振興株式會社ニ命ジテ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

中支振興株式會社監督官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十五條 政府ハ中支振興株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ガ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第二十六條 中支振興株式會社ハ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セス

第二十七條 中支振興株式會社ノ每營業年度ニ於ケル投資融資、及自營事業ニ因ル收入ノ投資、融資及自營事業資金ノ總額ニ對スル割合(以下收入割合ト稱ス)ガ年百分ノ六ニ達セザルトキハ政府ハ初營業年度及爾後五年間左ノ各號ノ金額ノ合計額ヲ限度トシ配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合

ニ達スル迄其ノ不足額ニ相當スル金額ヲ補給ス

一 投資、融資及自營事業資金ノ總額中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ依リタル部分ニ百分ノ七ヨリ收入割合ヲ減ジタル差ヲ乘ジテ得ベキ金額

二 投資、融資及自營事業資金ノ總額中社債收入金(社債前借金ヲ含ム以下同ジ)ニ依リタル部分ニ百分ノ五ヨリ收入割合ヲ減ジタル差ヲ乘ジテ得ベキ金額

每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ハ先ヅ之ヲ前項ノ補給金ノ償還ニ充ツベシ

第一項ノ投資融資及自營事業ニ因ル收入、投資融資及自營事業資金ノ總額竝ニ其ノ中政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ依リタル部分及社債收入金ニ依リタル部分ノ計算方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 中支振興株式會社ノ每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超過スル場合ニ於テ政府以外

ノ者ノ所有スル株式ニ對シ年百分ノ六ノ割合ヲ超エ利益配當ヲ爲サントスルトキハ其ノ超過スル利益金額ハ利益配當ガ總株式ニ付拂込ミタル式株額ニ對シ均一ノ割合ニ達スル迄政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額及政府ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ一ト五トノ割合ヲ以テ之ヲ配當スベシ

第七章 罰則

第二十九條 中支那振興株式會社ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ總裁又ハ總裁ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副總裁ヲ百圓以上二千圓以下ノ過料ニ處ス副總裁又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副總裁又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附 則

第三十條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十一條 政府ハ設立委員ヲ命ジ中支那振興株式會社ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十二條 設立委員ハ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クベシ政府前項ノ規定ニ依ル認可ヲ爲サントスルトキハ政府ノ出

資ノ目的タル金錢以外ノ財産ノ價格及之ニ對シテ與フル株式ノ數ニ付政府出資財産評價委員會ノ議ヲ經ベシ
政府出資財産評價委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 前條ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ株式總數ヨリ政府ニ割當ツベキ株式ヲ控除シタル殘餘ノ株式ニ付株主ヲ募集スベシ

第三十四條 株式申込證ニハ定款認可ノ年月日並ニ商法第二百二十六條第二項第二號、第四號及第五號ニ規定スル事項ヲ記載スベシ

第三十五條 設立委員ハ株式ノ募集終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ其ノ檢査ヲ受クベシ

第三十六條 設立委員ハ前條ノ檢査ヲ受ケタル後遲滯ナク各株ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク創立總會ヲ召集スベシ

第三十七條 創立總會ニ於テハ第十條ノ規定ニ準ジ理事及監事ノ選任ヲ行フベシ

第三十八條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ中支那振興株式會社總裁ニ引渡スベシ

第三十九條

政府ハ中支那振興株式會社ニ對スル出資ノ目的ニ充ツル爲帝國鐵道特別會計ヨリ其ノ所屬物件ヲ無償ニテ一般會計ニ保管換ヲ爲スコトヲ得

(終)

昭和三十三年四月十日印刷
昭和三十三年四月十五日發行

【非賣品】

印刷者	森利衛	東京市京橋區銀座西二ノ五
印刷所	森彩雲堂印刷所	東京市京橋區銀座西二ノ五
著作發行者	山一證券株式會社調查部	東京市日本橋區兜町一ノ三
	小野清造	代發者

發行所

東京市日本橋區兜町一丁目三番地
山一證券株式會社

電話芝場町(03)三一四一—九番

終

